

## 10月19日(水)午前 釜石市・鶴住居保育園



沿岸での初めての公演は、鶴住居保育園。震災以降は海から離れた場所へ移った園児40名ほどの保育園。まりまりが来るのを楽しみにしていたという男の子が、朝、保育園に来るなりフルパワーで走り回っている。  
「おかげで準備がすすまねーよ。」とムッシュはニヤけ、ともちゃんは、BGMの音楽に合わせてゆるゆると踊っている。たまは、「クワガタの虫

籠」が気になって仕方がない・・・三人共、来る前までは少し気負っていたが、子ども達に会って、肩に力が入らずに、いつも通りでいられた。子ども達は本当に元気で、そして明るかった。

公演後、仮設で暮らしている園児のお母さん方とお話をする機会があった。

「小学生達に見せてあげて欲しい、あの子どもたちは波を見て(大きなショックを受けて)いるから。」という言葉が切実だった。私達でいいならぜひ行きたい！さて、公演が終わってトイレに行ったムッシュ、トイレ中に、「また来いよ！！」と男の子からしきりに言われたらしい。



## 10月20日(木)午前 釜石市立小川幼稚園

今日は、ともちゃんがお休み。というわけで、たまとムッシュの二人公演。下見の際「震災で親を亡くした子どももいて、しばらくは大変だった、最近やっと落ち着いてきた。」と園長から伺っていた。

さて、この日の子ども達は、私達が園に着いたときから興味津々。



子供を見てハイテンションになったムッシュが子ども達と外の遊具で遊び始めた・・・。「ム〜ッシュ！！」昇り棒を昇り切ってポスト猿みたいになり、子供たちを煽っているムッシュを、たま一喝。ムッシュ、しぶしぶ戻ってくる。さて、この幼稚園の子ども達はとにかくノリがよい。ノリが良すぎて、最初のうちはワイワイして芝居どころではない。しま

いには、先生に怒られて半ベそ(笑)。とにかく元気で、エネルギー満ち。この幼稚園には、知的障害・発達障害のクラスがあり、その子ども達も一緒に見てくれた。実はこの幼稚園は今年度いっぱい閉園となる。

そんなこともあり「子ども達に楽しい思い出をつくって欲しい」と言われていた。楽しい思い出になっただろうか。帰りに子ども達を書いた絵の入ったお守りももらった。これを持っていると長生きするらしい。

## 10月20日(木)午後 大槌町・浪板交流促進センター

「津波以降、引きこもりがちなお年寄りが見せたい」という要望があったコミュニティセンター。センターの館長さんが、近隣の家に一軒一軒チラシを配って宣伝してくださった。その甲斐があって、この場所を紹介してくれた大槌町教育委員会の山崎さんが「こんなに集まるなんて！」と驚くほど集まってくれた。脚の不自由な方が来てくれたり、ゲートボールを切上げて来てくれたり、仮設に併設されている高齢者施設の職員が「芸を盗みに来たよ！」とやって来たり、様々な人が観に来てくれた。

下見の日に「必ず行きますよ」と言ってくれた方が、素敵な服装でいらっしやう。ムッシュがそれを見て嬉しそうに、「そうだよ、芝居はオシャレして観に来るもんなんだよ！」と言う。そういう機会を作れただけでも良かったと思う。終演後にかけられた「久しぶりにこんなに笑ったよ。」「もうちょっとみたかった。」という言葉が嬉しかった。

## 10月21日(金)午前 山田町・わかき保育園

山田町は、私達の沿岸部公演をずっと支えて下さった、菊池千賀子さんの故郷。千賀子さんに「まりまり、いつか山田町に来てね。」と言われてからずっと来たかった場所だった。

さて、このわかき保育園は、千賀子さんの同級生の方が園長先生。園は流されてしまい、今は山の上のお寺の



「虹」  
庭のシャベルが 一日ぬれて  
雨がさがって くしゃみをひとつ  
雲が流れて 光がさして 見上げてみれば  
ラララ にじかにじかに 空にかかって  
君の君の 気分も晴れて  
きっと明日はいい天気 きっと明日はいい天気

一角にある。園児は15名ほど。今回の公演は園児以外に、地域のお年寄りの方や、障害をもった方も一緒に観劇。公演のお礼にと、子供達が、めいっぱい歌と踊りのおもてなしをしてくれた。左の歌詞は「虹」という歌。園児達が、一生懸命歌う姿に胸一杯になった。小さな命ってというのは、体は小さいのに、存在は大きい。ともちゃんが、「この子どもたちが、新しい山田を作っていくんだと思った。」と言う。

## 10月21日(金)午後 山田町・大浦小学校



大浦小学校は、千賀子さんの母校。もともと山の中にあるので、学校は無事だった。生徒は全学年で38名。シャイだけど、挨拶をすると照れながらもしっかり挨拶を返してくれる生徒達。生徒以外にも(仮設住宅も含め)高齢者の方々も集まってくれた。

「もうすぐ発表会で劇をやるので、きっといい刺激になる。」と校長先生。大浦小の文化祭は子供だけではなく、地域の人達の発表の場でもあるという。そういう在り方が子ども達を育て、大浦を支えてきたんだろう。今年は震災の影響で叶わなかったが、その素敵な文化祭がまた戻ってきて欲しいと願う。

写真一番左端が、菊池千賀子さん右端は、高橋澄夫校長先生



## 沿岸公演アンケートより ~みなさんからの声をご紹介します~

### 【保育園・幼稚園 他】

■いろいろつらいことがあったけれど、子ども達の笑顔がみれてよかった。  
■もっといろいろな人に見せたい。このお芝居で笑顔になれる人はたくさんいるはず。■ぜひ小学生にみせたい、絶対大笑いだと思う。■表現が面白く、子ども達もひきつけられて、真似をしていた。■日々笑うこともあまりないので、笑うことが出来、毎日の疲れがブツ飛んだ。絶対絶対また見たい。■高齢者の方も元気がもたらえた。■今後も被災地のたくさんの人を元気づけてもらいたい。■(障害者施設の)学園の皆にみせてやりたい。■ポスターにあったとおり、どの年齢でも楽しめた。■子ども達も、どんどんお芝居に引き込まれている様子がすごい。

### 【小学校】

■何もつかわずにやっけて、すごいと思った。頭でそうぞうできたし、また見たいと思った。■びんぼう神のはたらいているところがおもしろかった。■次来たら、違う話をしてほしい。■大浦小の劇で、大きい声で、アクションも大きくやりたいと思った。■なにもつかわないでお芝居をやるので、ほくもやってみようと思った。■学習発表会で、けらい役なので、えらそうに演じたいと思った。■短い時間だったが、3時間のミュージカルで感動する以上の感動を与えてくれた。子ども達にとって素晴らしい体験になった。 ~他多数

## 絵本を保育園2か所に贈りました。



今回、龍昇殿公演の入場料の一部を使って、保育園2か所に、絵本を贈らせていただきました。支援してくださった皆様へご報告致します。

お芝居デリバリーまりまり (たま・とも・ムッシュ)

## 【編集後記】

今回の公演を迎えるまで、ずっと抱えていた思いがありました。「僕らの芝居が沿岸の人達力になれるのか。」被災地に関わろうとした時、僕らは芝居を選びました。それで良かったんだと思います。「さきやかでも僕らにやれることは確かにある。」芝居をしながら僕は、そう感じていました。それぞれがそれぞれのやり方でいいんだと。「また来いよ！」と言われてたからではありませんが、また行きたいと思っています。

【お芝居デリバリーまりまり ムッシュ】